

Q 子ども食堂のスタッフ、ボランティアに対してのよう

な想いをお持ちですか。

A 伊藤さん
私は「何をしたらいいんで

すかではなく、何が出来るだろうと
思っていたら、この食堂はい
いものになると思いました」とい
言葉を、朝のミーティングで話してい
ます。みなさんが自分たちで考えて
動いてくれていて、本当に助かって
います。



▲打ち合わせ中のスタッフ



▲みんないっぱい食べてね

Q これまで印象に残っている
出来事は何ですか。

A 伊藤さん
ある年配の方がお孫さん

と来てくれて、そのときのメニュー
がオムライスだったので「久し
ぶりにオムライスを食べました」と
いう言葉がアンケートに書いてあっ
たことですね。取れたての野菜とつ
きたてのお米だったので、嬉しなっ
たですね。

Q 新型コロナウイルス感染症の
拡大で、子ども食堂ができな
くなってしまいましたか。

A 伊藤さん
3月から子ども食堂はやれ

ていないですね。そんな中、ピタッ
と止めるのではなく「私たちのでき
ることってなんだろっ」と、スタッ
フと話した結果、※フードパント
リーを始めました。3月は飲食店を
借りました。そのときは広報には載せ
ず、チラシを配ったり、Facebook
でお知らせしたのですが、約60人の方
が来てくださりました。

Q 改めて、にじいる食堂を
どのような食堂にしてい
たいですか。

A 伊藤さん
まだ、届いていない子ども

たちもいるので、私の中で力不足だ
なと思います。細く長くやり続ける
ことが大切なので、どんな形でも
消えないように支えながら、その子
たちに届くようにやっていきたい
と思います。みなさん、支えてくだ
さい。ありがとうございます。

※フードパントリー

食品を無料で配布する支援
活動。新型コロナウイルス
の影響で、子ども食堂の自
粛が続く中、全国でこの活
動が脚光を浴びている。



▲ドライブスルーで配布

9月定例会

質疑あれこれ

討論・審議結果

一般質問

トピックス

追跡